

## 論文内容の要旨

氏名	清水 久央
Age and composition of the thrombus retrieved by mechanical thrombectomy from patients with acute ischemic stroke are associated with revascularization and clinical outcomes  (和訳)  急性期虚血性脳卒中患者から機械的血栓回収術で得られた血栓の年齢と組成は血栓回収術転帰および臨床転帰と関連していた	

### 論文内容の要旨

Introduction : 近年脳梗塞患者に してカテーテルによる血栓回収療法が行われるようになってきている. 脳梗塞患者から得られた脳血栓の組成を病理学的に評価することは, 脳梗塞の病態を解明する上で重要である. 脳血栓の組成と血栓年齢(血栓が形成されてからの時間経過)を免疫組織学的染色を用いて定量的に評価する.

Material and method : 01 年から 01 年までに 県立 学 病院及び 立 病院で血栓回収療法が施行され血栓が得られた連続 108 例を解析した. 得られた血栓を 記の を用いて免疫染色した. {vWF(vWF), fibrin(fibrin), IIbIIIa(血小板), glycophorin A(赤血球)}連続した切片を染色し画像解析ソフトを用いて陽性面 を計測した. 血栓年齢を評価するために好中球の細胞溶解性変化と CD13 を指標として用いた. 脳卒中病型, 患者予後, カテーテル手技との関連を評価した.(倫理 員会承認 2533)

Result : 脳梗塞病型の内訳は以 の通りであった. 心原性脳塞栓症 74 例, アテローム血栓性脳梗塞 11 例, 脳卒中病型不明 1 例, その他病型(トルソー症候群など)が 11 例であった. 脳梗塞病型による血栓の組成には統計学的な差は見られなかった. イブリン面 は赤血球面 および血小板面 と正の相関があった. 以 の解析は心原性脳塞栓症のみに して行った. 血栓年齢の評価では症例の 30%を新鮮な血栓, 70%を古い血栓と分類した. 古い血栓では新鮮血栓と比較して赤血球面 が小さかった. 古い血栓では血栓回収療法による再開通までの時間が新鮮血栓と比較して長かった. 血小板が豊富な血栓では, 血小板が乏しい血栓と比較して, 血栓回収療法の手技回数が多く必要であり, 血管再開通の割合が低く(TICI grade), 機能予後(modified ranking scale)が不 であった. 凝固薬を使用している患者の血栓は凝固薬を使用していない患者と比較して CD13 が多くみられ, 古い血栓が多いと考えられた.

Conclusion : 血栓の組成は血栓回収療法や臨床転帰と相関していた. 急性期脳梗塞患者の血栓組成は脳卒中中の病態を反映し, 治療効果に影響を及ぼす可能性がある.